

## 実践記録（小6・総合的な学習の時間）

### 1 ねらい

意見交流を通して相手の考えを理解し、自分の考えを深めることができるようにする。

### 2 手立て

場面ごとの立場を集計した表（右図）

を使い、場面ごとに意見交流を行う。

- ① 前時の自分の考えと、友達の考えを比較する。
- ② それぞれの場面で、1～5を選んだ理由を発表する。
- ③ 友達の発表に対して、質問や反論・新たな意見などを加えながら、意見交流を行う。
- ④ 友達との意見交流を経て、最終的な自分の考えをワークシートに書く。

	有罪 ←————→ 無罪				
	5	4	3	2	1
場面1		●●●●	●●●●		●
場面2			●●●●	●●	●●●●
場面3	●●		●●●●	●●	●
場面4	●			●●	●●●●

### 3 実践の様子

前時にNHK for school「昔話法廷」より、「舌切りすずめ」の動画を視聴し、それぞれの場面で有罪か無罪かを考えさせ、自分の考えをもたせてから意見交流を行った。

本時では、意見交流の前にプロジェクターを使って黒板に表を提示し、児童が考えた立場を場面ごとに示した。児童は自分の立場と友達の立場を比較し、「場面1では、絶対有罪と考えた人は一人もいないのか。」「僕は絶対無罪だと思ったけど、みんなはどちらとも言えないんだな。」などと気づき、同じ場面でも人によって考え方が違うことを理解することができた。

そして、意見交流を行うために、自分の立場と選んだ根拠を発表させた。また、聞き手は、友達の発表に対して質問や反論、新たな意見を言ってもよいことを伝えた。最初は、質問や反論をすることをためらう様子が見られたが、慣れてくると自分の立場と考えを交え、活発に意見交流する姿が多く見られた。

1～4のすべての場面で意見交流を終えると、ワークシートに「他の人の考えと比べて思ったこと」や「他の人の考えを聞いて、改めて思った自分の考え」を記述させた。ある児童は、初めは無罪だと考えていたが、友達と意見交流するうちに、すずめは有罪だと考えるようになった。そして、全ての場面での意見交流を終えてから考えを記述させると、「私はやっぱり有罪だと思う。なぜなら、すずめとおじいさんは、おばあさんがいないときに一度会っているから作戦を立てられると思ったから。」と記述していた。

私は、やっぱり有罪だと思う。  
なぜなら、すずめとおじいさんは、  
おばあさんがいないときに一度会っている  
から、作戦を立てられると思ったから

このような意見交流を通して、友達の考えを基に新たな考えをもつことができたり、自分の考えに対して明確な根拠をもち、考えを深めたりする児童の姿が見られた。

### 4 成果と課題

- 全員の立場を集計した表をプロジェクターで黒板に写したことで、全体で情報を共有することができ、自分の立場と友達の立場が比較しやすくなった。
- 意見交流を行い、自分と違った考えを聞くことで、新たな考えをもったり、自分の考えを深めたりすることができた。
- 分かりやすくしたり、振り返りやすくしたりするために、意見交流の際に発表した理由を黒板に貼り、可視化するなどの工夫が必要であると感じた。